

●リエゾンゼミⅠの達成度判定Ⅰ～Ⅲについて

リエゾンゼミⅠ 達成度判定Ⅰ～Ⅲは、リエゾンゼミⅠの機能、到達目標と次のように対応している。

5つの機能	到達目標	活動例	マイステップ・リエゾンレポートフォリオ
①居場所、関係性づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク ・チームワーク課題のワークショップによる交流と関係づくり ・副担任やピアメンターからの働きかけによる交流と関係づくり ・部活やサークル活動、学生指定団体などへの参加 ・クラス行事(昼食会、芋煮会、スポーツ大会など) ・ピアメンターの活用(履修と学生生活の相談、ピアメンターのクラスへの参加、ピアメンターアワー(研究室で決まった時間にピアメンターに学生が質問できる)など) ・全員との個別面談やグループ面談など 	<ol style="list-style-type: none"> 1) ゼミのクラスの中で打ち解けて話をする事ができる 2) ゼミにおけるグループワークや行事に協力して参加することができる 3) アカデミックアドバイザー(ゼミ担任)やアカデミックサブアドバイザー(ゼミ副担任や学科の学修創造支援員など)、ピアメンターに、必要ときは授業中や授業後またはオフィスアワーやUNIVERSAL PASSPORTのQ&Aを活用して質問・相談することができる
②大学施設紹介や各種ガイダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを用いたさまざまな学内施設、部署の紹介 ・図書館ツアー、美術工芸館ツアー、キャリアセンターツアーなどによるミニ・エクスカーション ・メンタルヘルスなどの相談部署の紹介 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 文献を探したり視野を広げ教養を深めたりするのに図書館を活用することができる 2) 感性を育むのに美術工芸館や音楽堂などを活用することができる 3) キャリア形成や就職相談にキャリアセンターを活用することができる 4) 留学や国際交流に国際交流センターを活用することができる 5) 学修相談や語学・異文化の学習に学修創造支援室や語学・異文化学習支援室を活用することができる 6) 病気・ケガの措置や健康相談、心の悩みの相談に保健室やウェルネス支援室、学生相談室を活用することができる 7) ボランティア活動をするのに、ボランティア支援課やボランティア系サークル、学生指定団体、障がい学生支援室、社会貢献・地域連携センター(地域共創推進室、次世代育成支援室、特別支援教育研究室、予防福祉健康増進推進室など)を活用できる
③規則正しい生活・学修環境づくり	<p>②規則正しい生活と心身の健康習慣、学修時間の確保・管理と学修習慣、キャンパス・マナーと防犯、防災・減災の知識、挨拶・礼儀など、大学生としての態度・志向性を身に付け、生活の自己管理デザインや健康向上行動を主体的・自律的にとることができるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理について、テキストを読みながらチームディスカッションなど ・クラスの学生グループ(3人以上)で美術工芸館や図書館を訪れて、特設展についてのレポートなど ・セキヤなどにおける大学公認ボランティアへの参加とレポートなど ・野球部などの体育会応援への参加とレポートなど ・学会、シンポジウムなど、大学で開催する行事に参加してのレポートなど ・成道会、両祖忌などの仏教専修科行事への参加とレポートなど 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 規則正しい生活と心身の健康について知っており、それらに配慮した行動をとることができる 2) キャンパス・マナーについて知っており、守ることができる 3) 授業外の学修時間(予習・復習など)の必要性と確保について知っており、自己管理することができる
④汎用的スキルの養成	<p>④論理的思考など、個々の専攻の専門性にとらわれない幅広い領域を対象とした大学の学びの基礎となる「教養の基礎知」を総合的に体験し、その知識・理解を深め、述べる事ができるようになる。</p> <p>⑤ノートの取り方やレポートの書き方などの学習スキルや汎用的スキル、コミュニケーション能力、伝える力の基礎、自律的学修態度を修得し、活用することができるようになる。</p> <p>⑦設定した課題についてグループでさまざまな観点から探究し、論理的に考え、課題を発見し、討議し、解決していく統合的な学習経験を体験し、創造的思考をすることができるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義ノートの取り方について、テキストを読み、互いに参考にしあう、担任が確認するなど ・ICTスキルについて、基本は講義の「情報処理実習」「情報処理応用実習」で学ぶも、授業では実際の活用など(ピアメンターのアシスタント活用も) ・学科やクラスで「プレゼン大会」プロジェクトを作り、その準備・実施など 	<p>①履修スキル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) シラバス、履修系統図、履修モデル、資格、副専攻、特色ある学修などを参考に、自分が学びたいことにそって履修することができる 2) 卒業に必要な必修科目の単位数、区分ごとの選択科目の単位数、卒業に必要な科目と資格科目について確認し、履修登録することができる 3) 総修得単位数やGPAの活用について理解し、履修登録することができる <p>②学習スキル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義ノートの取り方を理解し、講義ノートを適切に取ることができる(板書と口述のまとめ、キーワードと疑問点、要約・補筆) 2) 図書館やインターネットで必要な、信頼できる文献を探し出し、収集できる 3) POを用いてレポートや図表、プレゼンテーション用スライドを作成し、見やすく工夫できる(スライドの工夫では、目次、箇条書き、タイトル36ポイント以上、テキスト24ポイント以上、ゴシック体、体言止め活用、1枚約7行、イラストや写真活用など) 4) レポートの作成の仕方を理解し、形式・内容とも整ったレポートを作成できる(資料収集、問題点の整理とテーマの絞り込み、序論・本論・結論の構成、校正、推敲など) 5) プレゼンテーションの仕方を理解し、目的と聞き手に応じてわかりやすく効果的なプレゼンテーションをすることができる(序論・本論・結論の構成、スライド1分1枚～1.5枚程度、原稿10分間A4で40字×36行1枚程度、発表練習、強弱や間でもメリハリ、アイコンタクト、身ぶり手ぶり、表情、立ち位置・姿勢、聞き手の反応) <p>③コミュニケーションスキル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 笑顔で、元気よく、目線を合わせて、自ら挨拶し、話を始め、続けることができる(天気・季節・近況、5W1Hの質問、共通の話題探し、「おまけ」の情報) 2) 相手の様子をよく見て、傾聴し、相手の考えや気持ちを尊重することができる 3) 自分の考えや気持ちを相手の表情やしぐさを見ながらわかりやすく伝えることができる 4) あたたい言葉がけをすることができる(肯定する心で、励まし、具体的理由・出来事+感心やうれしさ、感謝の気持ち) 5) 誠意と感謝の気持ちをもって頼むことができる(クッション言葉(恐縮ですが)+相手が「はい、OK」と思える理由+具体的に頼む・二者択一で頼む+Yesの返答の期待(引き受けてもらえたときの結果)) 6) 上手に断ることができる(早く、タイミングよく、謝る(相手を尊重)+理由+はっきりと断る+代わりの案) <p>④問題解決スキル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 設定したテーマについてグループでさまざまな観点から探究し、論理的に考え、問題を発見できる 2) 設定したテーマについてグループでフィールドワークや調査を行うことができる 3) 設定したテーマについてグループで集めた文献・資料や調査の結果をもとに討議し、問題を解決していくことができる
⑤(社会、専門科目、将来・キャリアとの)リエゾン	<p>①高校教育までの知識・理解を整理した上で、少人数制の能動的学習によって、建学の精神・本学の教育理念・大学行事の意義を理解して説明でき、社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観を持ち、大学生生活を卒業後の就業社会、キャリア形成につなげる視点で送ることができるようになる。</p> <p>③ゼミ生、本学学生・教職員、地域の人々など、学内外の多様なひととの「リエゾン」を築くことができるようになる。</p> <p>⑥到達目標の⑤を基にして、自己理解、将来展望描写、キャリア形成に取り組む姿勢を身につけ、社会に貢献することができるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の自由講義を設け、2年生以降の専門の学びの魅力についての話 ・学科単位で各学科の学びの全体像や資格、コース制、リエゾンゼミⅡなどについてガイダンスの開催など ・夏休みの「キャリアデザインⅠ」の開設を受けて、後期に就活終了生やOBを招いての体験談など ・実際に地域に出てフィールドワークの実施など 	<p>①社会とのつながり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観を持って行動できる(防犯、防災・減災、認知症サポートなど) 2) 情報倫理について知っており、情報倫理を守ってSNSを利用することができる 3) 社会の問題や身近な問題について、自らかかわる(主体性)、自ら考える・気づく(課題発見能力)、自らアクションを起こす(実行力)ことができる <p>②専門科目とのつながり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 建学の精神・教育の理念・教育の特色、大学行事の意義を知っており、説明できる 2) 学士力について知っており、説明できる 3) 学科の学位授与の方針(ディプロマポリシー)や教育目標を知っており、説明できる <p>③将来・キャリアとのつながり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生生活を卒業後の就業社会、キャリア形成につなげる視点で送ることができる 2) 卒業時にどのような知識や能力、態度が身についているか、説明できる 3) 将来、どのようなことをしたいのか、どのような人になりたいのか、将来の目標と展望を描くことができる

※①～③は大学生活への適応